

# 学校行事等の問題と対策

金沢大学教育学部付属高等学校  
学校行事等検討委員会

## はじめに

昨年度、第8回の生活指導部会での共通課題「自主性と指導性の検討」を機会に、われわれは、「生徒会活動と諸行事」に関連した分野で反省と問題点の対策を考えて来た。その際、生徒会企画の諸行事は、新しい角度から調整され、適正な指導の行われねばならぬ多くの問題点をもつことを痛感し、再検討すべき課題として残してきた。

生徒会が関連する諸行事は、創成期以来の特殊な要望を背景として成長し、うけつがれ、そして、独自の効果をあげているものがたしかに多い。しかし、教育課程の正常な運営の中で、十分な成果を期待するためには、これらの行事のみならず、従来から慣例的に学校暦の行事としてくり返し行われている多くの諸行事をも含めて、それらが、他の領域の運営に障害とならぬよう精選整理し、調和ある計画を樹立するとともに、その実施に当って、諸行事のねらいが十分達成できるような生徒参加の姿勢に適切な指導が必要なことはいうまでもない。

わが校でも、行事過多と授業時数確保の問題に当面して、行事の整理縮少が生徒の生活慣行におよぼす反響も考慮しながら、漸進的打開につとめてきた。

第9回大会の共通課題として、再び「指導性と自主性」が提起されたのを機会に、これらの分野で当面する問題点のうち、

- 1 わが校の実情に即して、学校行事等における指導の充実をはかるためには、いかなる調整が必要か。
- 2 その効果を高めるため、生徒ののぞましい参加姿勢の育成を、事例に即し、いかに配慮するか。

などの点について、その対策の一端を紹介して、大方の助言と指導を待ち、今後の運営に万全を期したいと願う次第である。

## 調整の試みと問題点

### 〔1〕行事の多彩化

学校行事等があたらしい領域として教育課程の中に位置づけられてから、かなりの日時が経過した。明確な意義やねらいが示されているが、そこに含まれる内容の殆んどは、その主旨を基に、あらたに形づくられたものではなく、既往の諸行事の教育的再編である。

わが校も、戦後に発足して以来20年、短い期間ではあるが、かなり多くの行事を育ててきた。中核をなすものは、学校の管理的色彩のものではなく、生徒活動に関するものである。そのいずれもが、生活内容の向上をねらいとしたものであったことはいうまでもない。

校地・校舎をはじめとして、生徒数の増加、選考法の改変、進学成績の向上、専門化にともなう安易感、大学入試の激化、経済の成長、平和の持続、巷間流行の激変、過去への憧憬など、生活環境や生徒気質の変革を背景に、生徒活動に関する諸行事は、多彩化する反面、伝統

の名のもとに、慣行化・惰性化に傾き、単に、形だけの継承にすぎないものも見受けられるに至った。

この種の行事は、元来、自主的なものであり、運営方法や内容は、時期的に大きく変えられてきた。スポーツ行事に例をとれば、その発生期には、クラス間の（草創期は5クラス、135名）親睦行事として、特定種目をえらび、放課後、長期にわたる対抗試合の形ではじめられたものが多い。クラブ活動の妨げになるとの理由で、やがて、種目も集約され、全員が参加できる内容のものとして、授業時に実施するように配慮され、学校行事の一環として位置づけられ、成長してきた生徒会組織の中で育まれるようになった。

自主的運営の余波は、内容の増量、日程延長、新企画へとおよんでくる。企画に当る役員、委員たちは、既往の行事を既得権的に考え、これを失うまいとし、さらに、その上へ在任中の力量発揮に努力する。

反面、慣行化がすすむにつれて参加者の態度は消極的・非協力的となり、不真面目さがめだち、授業を欠かない企画には賛意を示さず、役員、委員を当惑させるようになる。

学芸的行事についてもそうである。体育館も講堂もなかった時の行事の上に、新鮮味を加えようとして多彩化が進む。

こうした中で、他校にないわれらの生活ぶりとしての意識もつちかわれ、高められ、上級生は、4月に迎える新入生に対して、歓迎の辞の中で「わが付属高校の良い所は、自由と行事の多いことです」と聞かせるようになった。

個々の行事について、学校としても無意識に許してきたわけではない。むしろその自主的な特別教育活動の助長によって、生活に変化をもたせ、楽しくて豊かな3年間をおくらせて、本来の目標達成に資せんと心掛けてきたのであるから、一応固定化した時、これら諸行事の年間配置も内容も効果的になって、行事自体には、ある程度の自信も持てるに至った。

しかしながら、行事過多のきらいがなかったわけではない。38年度から新指導要領が実施され始めたのを機に、教科の面から、とくに、授業時数確保の要望が高まり、諸行事再検討の方向がとられるにいたった。単位数や科目によって差はあるが、学級によって異なる授業時数、不規則化、絶対時数の不足など、避けられない傾向がめだった。単なる行事切り捨ては、助長したい自主的な生徒活動に与える影響も大きい。個々の行事についての主体性の検討（学校行事か生徒会行事か）や、それぞれの行事のもつ教育的効果の再検討も大切だが、とりあえず授業時数の確保を第1の問題として、39年度をふりかえてみたのが次の表である。

## 〔2〕欠授業時数の対策

諸行事精選の第1段階として、従来の慣例をうけついできていた昭和39年度の諸行事と授業時数の検討を試みた。

（第1表）では、年間授業すべき日数を示した。（時数はすべて50分1単位時間数を示す）

（第1表）

月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	計
出校すべき日数	17	25	26	17	25	27	23	21	17	24	21	243
授業できる時数	102	140	148	87	142	154	130	126	96	136	120	1381
上記のうち④の時数	4	4	4	3	5	4	4	3	3	4	4	42

備考 ●入学 4月10日 ●始業 9月1日、1月11日 ●終業 7月20日、12月24日、  
3月24日 ●卒業 3月10日 ●週間時数 34時間 ●三年は2月10日まで  
として 1,149時間

(第2表)では、諸行事のため授業を欠いた時数を示した。

(第2表) 欠時の概要 (昭和39年度の実態)

項 目 (理由)	実 施 月	1年	2年	3年	備 考
儀 式	入学式	4	2	2	4月10日午後
	始業式	4, 9	1	2	3学期は授業実施
	終業式	7, 12, 3	3	3	
	卒業式	3	2	2	0 3年は授業0とする。
儀式後打ち切り	始業式後	4, 9	3	3	
	終業式後	7, 12, 3	12	12	9
	卒業式前後	3	4	4	
定期的考查	学力テスト	4, 6, 9 11, 1	0	0	58
	期末(中間)テスト	5, 6, 9 12, 3	45	55	39
	考查後の打ち切り		55	51	73
生徒会の集会	演説会・公聴会	9, 3	3	3	2 4月は㊟
学芸的行事	記念祭行事	11	12	12	12 2日間
	予餞会	2	6	6	6
体育的行事	運動会とあとしまつ	5	8	8	8
	球技大会	4, 9, 12	24	24	24 {4月…6 9月…12(1日と午後2回) 12月…父母の会と併行(午後) 6月は名大戦予選 各1日と午後
	ソフトボール大会	6, 10	16	16	16
遠足・旅行	遠足	4, 10	12	12	12 {修学旅行は8月実施 1年生 能登実習は含まない。 レントゲン, 予防接種など授業 と併行
その他	健診・検査	4, 5, 9	4	5	6
	清掃	4, 7, 9 3	3	4	3
	(オリンピック)	10	2	2	2 (特別)
	災害(雨)	7	3	3	3 7月豪雨 (冬季の豪雪なども予想される)
	PTA総会	4	1	1	1
	成績会議	7, 12	3	3	3
	父兄面談	7	6	6	6 {午後3日間 12月は上記球技大会に併行 2月…入学試験と試験場作りも含 む 3月…期末テスト以後(12日)
	入学試験と自宅学習	2, 3	68	68	
合 計			298	307	(289) 3年生は2月10日までを考えた。

(第1表)・(第2表)から、実授業時数の過不足を検討してみると、第3表のようになる。

(第3表) (休暇中の諸行事については除外した)

項 目		学 年		
		I	II	III
A	授 業 で き る 時 数	1,381	1,381	1,149

B	授業しなかった時数	298	307	289
C	A－B（実施総授業数）	1,083	1,074	860
D	週当り授業時数	34	34	34
E	年間授業すべき時数 (34時×35週)	1,190	1,190	1,190
F	E－C 過不足時数	－107	－116	－330

（第3表）F項にあらわれた不足時数に関して反省される問題点を、（第2表）中心にとらえてみると、

- (1) 定期的テスト、および、その後の授業打ち切り時数が、100（1年）～170（3年）となっており、教科の進捗には直接の役割りを果たさないがその半分は授業時数に考えてよい。打ち切り時数はどう考えるか。また、3年間を通じてのテスト体系については、別に考慮する必要がある。
- (2) 儀式後の授業打ち切りのうち、始業式後に関する場合は再考できる。また、入学日、始業日そのものについても、大学に歩調をあわせ、他の公私立校よりもおくらせている点は是正した方がよい。（4月10日を4月8日に、1月11日を1月8日に）
- (3) 学芸的行事（18時間）、保健体育的行事（48時間）については、県内各高校の平均時数（学芸13時間・保体18時間……昭和40年9月、石川県研究集会……）にくらべて過多の傾向であり、その回数、時期、内容などの面で再検討すべき問題を多く含むが、他の領域とも関連する面が多いから、急激な縮小だけではすまされぬ点がある。
- (4) 修学旅行は、教生実習期間などの問題もあって、例年、夏季休暇中に実施しているが、やむを得ないとする。この結果、他校にくらべ（県内平均）42時間が2年生において補われている筈である。
- (5) その他の事項中、健診は医師その他の都合で、現状を変えられず、公開授業を含めたPTA総会や父兄との個別面談が、その運営上、ある程度、授業時中にくいこむのも止むを得ない。ただし、入学試験期と年度末に多い（12回）自宅学習の期間は、年度末事務処理の問題がからむが、極力縮小すべきである。

以上の反省をもとに、41年度は漸進的改良を方針として、つぎのように試みた。

（対策）

- (1) 始業は4月、1月とも公立校に歩調をあわせるとともに、当日より授業を実施する。20数時間の増を見込む。
- (2) 自宅学習12日間は、慣例化しているとはいえ、多きにすぎるから、入学試験関係などのやむを得ないものだけにとどめ、学年末体制も、成績作成、諸記録の整備の期日と方法を改め、努めて縮小する。（期末考査は9日→13日を15日→19日とし、成績伝票提出は18日を22日に、成績通知票は25日に郵送することに変更し、従来の自宅学習を4日分24時間の減を考慮する。）
- (3) 生徒会の活動に関連の深い学校行事等については、とりあえず、次のように各分野の時

間枠を設け、その枠内での自主的運営に指導の重点をおき、生徒自体にも検討の機会をもたせるとともに、あらためて検討委員会を組織して審議をすすめる。（８時間の減）

学 芸 的 分 野	18 時 間	記念祭行事，予餞会を考慮
体 育 的 分 野	40 時 間	運動会，スポーツ大会，ソフト大会，マラソン大会などを考慮

一応こうして欠時数補充（約50時間）の第一次的対策をととのえて41年度を出発させた。39年度にくらべ、休日の増加，学年末臨時体制（自宅学習の形態をとりやめ，３月20日を以て終業とした。）などのため，出校すべき日数は240日で3日減となったが，つぎのように運営された。

（第4表）41年度授業実施状況

学 年		I	Ⅱ	Ⅲ	備 考	
A	出 校 す べ き 日 数	240	249	234	入学 4月8日，終業 3月20日，休日増， 卒業 3月10日	
B	普 通 授 業 時 数	1,116 (1,215)	1,116 (1,215)	871 (1,064)	( )はC項を含めた時数	
C	考 査，テスト関係	99	99	193		
D	学 校 行 事 等 の 時 数	儀 式	24	24	21	入学，始業 8 卒業，終業 15 記念式 1
		学 芸 的 行 事	19	19	17	文化講演（5月） 2 記念祭行事（11月） 11 予餞会（2月） 6
		遠足・修学旅行	12	52	12	遠足（4，11月） 12 修学旅行（8月） 40 1年生の能登演習（9月）2日は含めない。
		保健体育的行事	36	37	37	スポーツ大会（4，9月）16，運動会（5月）6，ソフトボール名大戦（7月）8～9
		その他（健診）	5	4	5	レントゲン，オーリエンテーション，一斉健診
		（小 計）	(96)	(136)	(92)	
E	そ の 他 の 行 事	33	33	121	入試関係（2，3月）26 個人面談 6 PTA総会 1 3年生2月10日以後自宅学習	
F	C，D，E の 合 計	228	268	406	第2表参照	

〔3〕授業時以外におけるおもな行事の概要

（A）修 学 旅 行

種々の問題を含むので，後述（10頁）のように検討の結果，43年度より大幅な変革を予定している。従来<sup>の</sup>の在り方を42年度に例をとってその概要を示すと，

1 目 的

- ・教科学習を経験により拡充し，深い興味と研究心を高める。

- ・旅行参加を通じて、安全や健康、集団生活についての訓練を行い、併せて、楽しい生活の中で協同友愛の情と責任感を深める。
- 2 時 期
- ・教生実習期間および諸行事配分関係等の事情を考慮して、夏期休暇中に2年生を対象として実施することを原則とする。
- 3 日程と方向
- ・8月4日より8泊9日（旅館6泊）
  - ・東北、道南方面
  - ・引率 教官7名、医師1名
- 4 経 費
- ・積立月額700円、2年分を以てこれにあてる。

## (B) 体 育 教 室

従来、希望者を対象として下記のように実施されてきた特別行事を、つぎのような主旨にもとづき、第1学年の体育科の特別必修行事として41年度より実施したものであり、内容、時期、性格づけ等について、第2年度を迎え、目下検討の過程にある。

### 1 従 来 の 状 況

	種 目	参 加 人 員			備 考
		男	女	計	
38 年 度	登 山	50	25	75	立山（2泊3日）
	水 泳	30	10	40	能登高浜（2泊3日）
	ス キ ー	/	/	/	中 止
39 年 度	登 山	40	20	60	立山（2泊3日）
	水 泳	25	10	35	能登高浜（2泊3日）
	ス キ ー	15	5	20	極楽坂（富山県）スキー場 （2泊3日）
40 年 度	登 山	35	15	50	白山（1泊2日）
	水 泳	23	9	32	若狭高浜（2泊3日）
	ス キ ー	13	5	18	極楽坂スキー場（3泊4日）

### 2 教室のねらい

この行事は、ふだん学校内で実施しがたい種目を主としてえらんだものであって、あくまで本校教育計画の一環として、全員参加（1年生）のもとに行われるものである。そして、これは保健体育のいっそうの向上を期することをめざすはもちろん、同時に集団宿泊の訓練、社会道徳の実践、現地学習の指導ならびに余暇善用の習慣化などを併せ達成しようという目標をもった行事である。

### 3 種目と実施原則

- ・種 目
  - ×登山教室
  - ×水泳教室 (4)訓練コース

(ロ)保健コース

- ×スキー教室
- ×徒歩旅行（健歩教室と改称）
- ・実施原則
  - ×経費は積立金（月額300円）を以て限度とする
  - ×期間は3泊4日を限度とする
  - ×生徒はかならずいずれか1種目をえらんで参加する
  - ×参加種目の最終決定（1種目約50名）にあたっては、学校医ならびに保健主事の助言指導に従う
  - ×細案は別にこれを定める

4 41年度の実施概要

(イ) 登山教室（白山登山）

- ・日程（1泊2日）
  - 8月1日 6.00 金沢発：16.00 室堂着（泊）
  - “ 2日 9.00 下山開始：17.00 金沢着
- ・経費 約1,600円
- ・参加者 教官 6名 生徒 53名（内、女子 13名）
- ・注意事項（略）
- ・反省事項
  - ×引率教官の増加（脱落者対策）
  - ×トランシーバー、寝袋、その他備品整備充実
  - ×生徒に腕章の用意
  - ×山荘での起床指導に不備
  - ×事前の健診ではわからない車酔い、その他、脱落予測などの対策に考慮の必要あり

(ロ) 水泳教室（若狭高浜）

- ・日程（2泊3日）
  - 8月4日 8.45 金沢発（あさしお）：12.26 高浜着
  - “ 6日 15.16 高浜発（あさしお）：19.02 金沢着
- ・経費 約3,000円
- ・参加者 教官 8名 生徒 56名（内、女子 17名）
- ・注意事項（略）
- ・反省事項
  - ×女子用帽子、ブイなどの備品準備
  - ×水泳場の環境不良化の傾向に注意必要
  - ×引率者の行事継続に伴う疲労度の問題

(ハ) スキー教室（富山県、極楽坂スキー場）

- ・日程（3泊4日）
  - 42年1月4日 8.40 金沢発：12.00 到着
  - “ “ 7日 14.15 出発：16.50 金沢着
- ・経費 約3,600円
- ・参加者 教官 2名 生徒 19名（但し、2年生希望者も含む）

- ・注意事項（略）

(≡) 徒歩旅行（42年度は健歩教室と改称）

- ・日 程（3泊4日）

42年3月26日 8.00 金沢発（加賀）：14.30 近鉄岡寺着

〃 〃 29日 13.40 大阪発（ゆのくに）：18.37 金沢着

- ・経 費 約 4,000円（交通 2,000, 宿泊 1,700, その他）
- ・参加者 教官 7名 生徒 70名（内、女子 22名）
- ・宿泊所 奈良県立橿原公苑宿泊所（3泊）

- ・注意事項（略）

- ・コースの概要

×第1日（全員）

**飛鳥コース**（約12km）

岡寺駅—剣池—向原寺跡・豊浦宮跡—甘樫丘—飛鳥浄御原宮跡（飛鳥小学校）—飛鳥寺—板蓋宮跡—川原寺—橘寺—亀石—天武・持統陵—鬼のまないた—岡寺駅—宿舎

×第2日（全員）

**多武峯コース**（約25km）

宿舎—畝傍御陵—藤原宮跡（鴨公小学校）—安部文殊院—聖林寺—崇峻天皇陵—多武峯—談山神社—破裂山—石舞台—飛鳥寺—剣池—宿舎

×第3日（選択）

**二上山コース**（約18km）

宿舎—神宮駅■■■上の太子駅—叡福寺—岩屋峠—雌岳—雄岳—大津皇子御陵—石光寺—当麻寺—尺土駅■■■■神宮駅—久米寺—宿舎

**赤目コース**（約25km）

宿舎—御陵前■■■八木赤目口駅—滝口—赤目四十八滝—落合—香落橋—名張駅■■■■御陵前—宿舎

## 5 反 省

従来から試みられてきた季節の3教室に加えて、やや性格を異にする徒歩旅行（健歩教室）を学年末に配置して、予定通り実施した。結果について、後述の学校行事等検討委員会では、運営面での問題点をつぎのようにとりあげた。

- (イ) 行事がすべて1年生を対象とした選択必修の行事であるだけに、引率者はつねに1年生のクラス担任と体育教官を中心として重ねてえられるので、関係者の疲労度が大きい。
- (ロ) 徒歩旅行の設置された主旨は賛成できるが、体育的修練を主として、国文学、歴史の学習を結びつけても、学年的に無理な点がある。
- (ハ) 1年生のクラス担任となった場合、だれでも常に引率者として長距離の歩行に耐えられるかが問題である。
- (ニ) 学年末の事務的処理に障害がある。
- (ホ) 水泳教室はプール完成という事情もあるから別に考え、その中に含まれる生活的要素は高原・山麓などの環境で、徒歩的訓練を加味して実施した方が効果的ではないか。
- (ヘ) スキーは別として、登山・健歩を平行して実施できる場所を求められないか。

## 6 42年度の計画

既述のような反省にもとづき、42年度の体育教室は次のように実施されることになった。



(イ) 夏季教室

5月下旬、現地踏査の結果、候補地を白馬山麓と決定、**登山教室**と**健歩教室**を同時に平行して実施することにした。

・日 程（3泊4日）

7月30日 7.45 金 沢 発：13.28 信濃森上着

8月2日 12.54 信濃大町発：20.00 金 沢 着

第1日 両教室とも細野付近行程 4 km健歩

第2日 登山出発（第3日帰着）健歩は仁科三湖まで

第3日 健歩は八方尾根第3ケルンまで強歩（一部生徒はケーブル使用許可）

第4日 全員で黒四ダム見学へ。（バス利用）帰路につく。

・経 費 約 5,000円（従来通りの積立及び修学旅行縮少分による）

・参 加 者 教官 12名 生徒〈登山 51名（内、女子 8名）  
健歩 93名（内、女子 34名）

・宿 泊 所 長野県北安曇郡白馬村細野、岳明館・対岳館・スキー館の3館にクラス別分宿（1泊 900円）

・細案など（略）

・水泳教室

プール完成に伴い、水泳訓練を別に実施し、本年度の教室は設けない。

(ロ) スキー教室

3月下旬、志賀高原発着において3泊4日で実施予定。申込人員、17名、（内、女子3名）

(ハ) 夏季教室を省みて

新学期を前にして8月30日、昨年及び本年の各教室引率者の参会を願って行事の反省とこれからの展望を試みた。その時のおもな意見はつぎのようである。

- ・今年の場合、期日・日程については、一応止むを得ない所であるが、2年生の修学修行と時期が重なるので、経費融通の面で非常に大きな障害があり、今後再考を要する点がある。
- ・登山最適時に健歩教室を併行させたため、目的地が自ら両者併行可能の場所として白馬山麓がえらばれたが、3泊の日程は、他の宿泊を伴う諸行事との関連を考え合わせると多すぎるくらいがある。目的地の選定により縮少が可能であるから、その選定に再考の余地があるようだ。
- ・昨年度と異り、本年は140名余、大半の生徒が一時に参加し、クラス単位の宿泊体制をとり、業後の生活内容についての計画も用意されたが（ホームルーム単位）、鍛練的要素が強いため、引率教官の側での疲労度が条件となって、その面での指導にやや生彩を欠くうらみがあったと反省される。
- ・この場合、行事のねらいの重点がどこにおかれるかによって、その指導の在り方がきめられるが、行事そのものへの参加の姿勢と訓練にきびしさを求めていくのが最適であり、いわゆる生活指導、ホームルーム的要素は、せっかくの機会だが、体育教室以外の宿泊を伴う行事に重点的であった方がよいと考える。
- ・登山教室の時期は、他に変更はむづかしいが、前掲の指導上のねらいや、引率教官の問題が解決されるならば、健歩教室はあながちに同時である必要もないし、特別に夏季教室の中に設けられる必要さもない。むしろ、内容的にみて、昨年の奈良方面コースの方がよい

所がある。時期によって、方向が決定されると思うが、経費の面も考慮して、次回の計画は慎重を期したい。

- ・生活的指導の問題は、能登現地学習、修学旅行等での再検討が大切だ。
- ・健歩教室は、体育科としての創設理由を十分に生かし、例えば、来年度の修学旅行のコース検討の場合に健歩コースを1日分織り込むなどして、他の領域でもっと生かすことが出来そうである。年2回予定される遠足とも関連して、そのねらいが生かされるよう、この際十分な検討が大切である。

#### (C) 対名大付高交歓会（7月下旬）

規模と性格に共通点の多い両校が、クラブ活動、生徒会活動を通して交歓を推進することは、きわめて有意義であり、さらに、地域を異にする両校の交歓は、生徒の現在および将来において互に益する所が大きいことを期待して、昭和33年度より実施、本年で第10回目を迎えた。

バドミントン、卓球、テニス、男・女バレーの5種目の対抗試合と終了後の交歓をおもな内容として始められ、現在は男・女バスケット、サッカー、男・女ソフトボール（クラス対抗の優勝チームの出場）を加え10種となる。会場は1年交代に担当、各回の参加（遠征）生徒数は約160名である。

これまでに、経費の問題、全員参加の在り方、文化系クラブの問題、試合と交歓のつりあい、行事の主体性の問題など、生徒会・学校ともにその発展と成長を願って解決に努力を傾注してきた。含まれる問題点も多く、生徒の関心も大きいだけに、両校協力してその運営に万全を期し成果を高めたいと考えている。

### 〔4〕諸行事の検討

授業時数と諸行事の調整の結果、41年度は（第4表）のように運営されたが、なお、行事過多の傾向であり、内容の精選は大きな課題であった。

問題の中心は、生徒会の活動に直接関係する所大きく、新年度の役員、委員たちの抱負にもひびく。従って、42年度の展開に先立ち、諸行事の内容再確認と基本的態度の確立を目標に、つぎのような検討を試みた。

#### (1) 検討の経過

##### × 2月21日（教官会議）

- ・41年度後半期に入り、県教委による修学旅行に関する通達（――要旨、5泊6日までとする。――）が出されたのを機に、本校における修学旅行の在り方から検討（内容は後述）をはじめめる。教官へのアンケート。

##### × 3月3日（教官会議）

- ・学校行事等検討委員会発足。（学校長、教頭、教務部代表、補導部代表、体育教官、徒歩旅行引率者代表ら9名）
- ・修学旅行についての教官アンケートの集計を分配。
- ・各種行事に関する教官への質問を提示。

##### × 3月6日 第1回委員会を開く。

#### (イ) 修学旅行について

- ・教官の意見集計を参考に考え、基本的には修学旅行のもつ意義を認め、継続する。ただし、規模、内容は従来のもものよりよくするように努力したい。
- ・夏休み以外の時期（例えば、5月下旬、中間考査終了直後：9月下旬、教育実習の前：10月下旬、中間考査終了直後など）に関する意見もあるが、他の行事との関連、引率関係など問題点が多く、休暇中が妥当である。
- ・夏休み中の実施を支持する意見が過半数をしめるが、従来のは疲労が大きく経費がかさむので、県教委通達のように5泊6日程度がよい。2年生に実施、東北方面がのぞましい。
- ・旅行をうけとめる生徒の立場も考慮し、内容等について的大幅で急激な改正を避け、他の行事との関連もあるので一応43年度は従来方式で試みる。

(ロ) 宿泊を要する諸行事の総枠について

従来修学旅行（8泊）、能登方面現地学習（1泊）などを考慮して、3年間の宿泊を伴う行事の総枠は7～8泊が適当と考える。ただし、試行中の体育教室については、別に検討する。

× 3月8日 第2回委員会を開く。

- ・修学旅行の在り方について討議（上記第4項の問題点）を続行。
- ・体育教室の検討（8頁、反省の項）

× 3月16日 第3回委員会

- ・諸行事の実施要項の検討、アンケートにもりこまれた教官の意見を総合して、別項のように基本的な態度と要項を決める。
- ・新年度に先立ち、生徒にも発表することにする。

× 3月23日（教官会議）

- ・15日の委員会の報告を討議、了承。

## (2) 基本的態度

実施要項を決めるに当たって委員会は基本的態度として、つぎのような点を強調した。

① 趣旨の徹底と共通の理解を深めるよう努力する。

従来学校生活の中では、一般的にいて、

- (a) 学校の管理的色彩がつよく、慣例的行事としてくり返され、生徒はいわば手段として参加させられてきたような性格のもの（儀式、大掃除、健診）
- (b) 生徒自身は、自分たちの自由に運営できる行事として、既得権的に考えがちな行事（記念祭、スポーツ行事、予餞会など）
- (c) 学校が自分たち（生徒）のためにとくに計画してくれていると考えがちなもの（遠足、修学旅行）

と、考えられてきた型のものが、学校行事等を構成する要素となっているため、教師の方でも生徒の側でも、ややもすると、この検討を、単に行事の縮少とのみ考えて、そのねらいとする点を十分に理解しないことが予想される。

- ・教師は、(b)などの行事では、直接指導に当る一部の教師を除いては、行事の展開に消極的であるばかりでなく、運営経過の中で生活指導上重視すべき眼目さえもこれを等閑視し、単なる解放的行事と考えがちである。一方
- ・生徒の側においても、精選を圧迫と促え、(a)型行事に示した受身的消極性を(b)型行事の企

画運営に示すくらいもある。役員、委員が、本来の自由さを失って、一方的企画の忠実な代行者となる恐れもある。

ここにおいて、これら諸行事の大きな目標が、

「生徒の心身の健全な発達」を図り、

「学校生活の充実、発展に資する」

「学校が計画し、実施する」

「教育活動」

にあること、学習意欲や団体生活の規律・志気を高揚こそすれ、それに支障妨害を与えるものであってはならないことを十分に理解徹底させる。

② 運営面でとくにつぎのような点に指導性を推し進めるよう留意する。

イ 主役の指導のみに偏しない。

学校行事等はどの1つをとってみても、実に多彩な活動面を含んでおり、多様な個性に適應する教育の機会としての特色をもつ。

運営の表面で主役の役割りを果す生徒にのみ関心を示し行事の順調な展開をはかることは容易であり、かつ、やり甲斐を感じる。しかし、大切なことは、行事の中での1人1人の適應である。行事の経過の中で、小さな一駒を担当する生徒の姿は目立たず、指導や観察が困難でありおろそかになりがちとなる。自己の役割りを通して、生徒自身が自己の潜在能力を自覚し、以後の諸課題に自信をもって対応できるようになることは極めて大切なことである。

役割りの分担に細かい考慮をはらうとともに、個々の活動面での慎重な助言と観察によって、他の領域では期待できない効果を収めるよう、教師それぞれの立場での関心を深めたい。

ロ 実践を通しての指導に重点をおく、

学校行事等は、教科などがめざす知識や理解の修得とは多少性格を異にした特色をもち、その殆んどすべてが全校的規模で集団の活動という生活に結びついている。平素あまり交渉のない上級、下級の人たちとの接触を通して、集団の一員としての責任ある行動や自己をふりかえりみる態度を体得するによい機会でもある。従って、直接には道德教育のためのものではないが、常にふだん着のままで生徒と行動を共にする過程で、これら実践的道理の把握に役立つように心がけたい。

ハ 生徒会の現況との調和に留意する。

学校行事等が他の領域との関連を十分考慮におかねばならぬことはいうまでもない。行事等として規定された学芸的・保健体育的内容のものは、成長の経過からみて、多分に生徒会的要素が強い。生徒会20年の歴史の中にしみこんだ匂いは画一主義によって消さるべきではない。もちろん、この場合、単なる形骸の踏襲をいうのではなく、つまあげて自他ともに誇りとする自主独立の自由な精神である。生徒会の組織を基盤とした生徒の自主性は無限の可能性をもっている。表裏一体をなすものとして、その指導をあやまらぬようにしたい。2期に分けて運営されている現体制を前提に、その時期を担当する役員委員の活動内容にやりづらさを感じさせないような時期的配分を1つの条件として考え、さらには、直接指導連絡に当る顧問教官が、学校的立場には立ちながらも常に生徒会的立場で助言、指導にあたれるよう、圧することなく、また、放任に流れることのない、間をとった接し方で、従来の活動と新しい体制との調和を失わぬようにしたい。もっとも恐れるのは、精選が圧迫と考えられ、役員・委員も意欲的態度を失い、生徒会活動が本来の自由さ、のびやかさを後退させることである。

ニ 訓練的要素を重視する。

学校行事等は、そのいずれもが全校的規模のものであるだけに、きびしい集団的規律と秩序が要望される。集団の一員としての責任ある態度を実践的に訓練できる機会は、これら諸行事を除いて他の領域で殆んど見あたらない。

集合、整列、指示のうけ方から歩きかたにいたるまで、些細ではあるが、自分1人ぐらいはと思う無頓着さ、興味ある場面では自己本位の熱心さをみせる彼らが、準備や業後のあとしまつでは、目を覆うばかりの消極さ怠慢さを示すのが常である。

形にとらわれ、目的から逸脱した指導はさけねばなるまいが、反復して良いメンバースhipを身につけさせる生活訓練に積極的くふうをつみ重ねたい。

また、単に規律や秩序だけではなく、消極的で自己主張の少ない、集団活動の中で余り適応性を示さない生徒には、信頼できる特定のリーダーを中心した友情のグループを作るなどして、温かい配慮の中で自然にとけこませよう、実践を通しての訓練的成果にも期待したい。

### (3) 主要行事実施要項

委員会がまとめた、おもな行事についての実施要項と参考意見はつぎのようなものである。

#### (イ) 開校記念祭行事（11月上旬）

- ・20周年記念の年であるから、2日間の日程で行わせ、学校側委員および後期生徒会役員で慎重に行事予定を審議し、有意義な内容を、今後のため育にできるようにする。
- ・平年度については、この20周年行事の実態を見た上で、その日程も、(a)休日を含めた2日間、(b)1日だけ、のいずれかに決めたい。
- ・クラブ活動の要素、式典、記念行事、記念祭のパレード、レクリエーションなどの各要素のとり入れ方に問題があり、各高校全般の風潮も眺めて十分な検討がのぞましい。

#### (ロ) 予餞会（2月上旬）

- ・従来通り1日でよい。
- ・単なる余興の集合に終始させないで、3年間の反省、下級生への要望、未来像の創造など意欲的な面も加味し、学生らしい1日であるように、プログラム構成と運営に一段ときびしさを要望する。

#### (ハ) 文化関係講演会

- ・春秋各1回は計画した方がよい。文化委員会の要望もきき、金大関係者（遠来の人でも集中講義時を促え）を十分に活用できるのではないか。

#### (ニ) 遠足・修学旅行について

- ・修学旅行については（10頁）参照。
- ・遠足については、歩くことを慣例とした現状を支持する意見つよく、4月中旬の学年別遠足はあたらしいクラス編成下の親睦化のねらいがみたされ、11月下旬の全校遠距離遠足は郷土の大自然にとけこんで快適であり、続行する。

#### (ホ) 運動会

- ・従来通り5月中旬を妥当と考える。
- ・内容については、4月以来の新しいクラス生活の融和をねらいとした行事の最後のものだから、楽しさの要素を拭う必要はないが、学生らしいテーマをもち、つねに未来への希望に生きるものとして運営されるようプログラム作成の指導などに留意すべきである。

#### (ヘ) スポーツ大会などについて

- ・行事過多の中核をなすものであり種目の精選と実施時期の選定については、とくに1年間の生活の波を考慮し、行事運営の中心となる生徒会が前後期の2期制（10月役員交代）をとっている現在、両期役員の活動に励みを与えることも十分織りこむ必要がある。
- ・春季は新しい生活への順応を目標に、運動会とも関連させ、4月下旬、1日と2時間（5、6限）を用意する。
- ・ソフトボール大会は、対名大付高戦に全員が参加することを目的とした予選大会であるから、6月上旬、1日と2時間をこれにあてる。
- ・秋季は、10月下旬、スポーツ大会として従来の諸要素を併わせて実施させる。1日と2時間。
- ・運動会とあわせて合計**30時間**となるが、第1日の予選リーグで全敗したクラスに対しては、第2日の午後の授業を行う。

## お わ り に

学校行事等がもつ問題点は、内容が多彩である上に他の領域との関連がきわめて深く、単独では解決し得ないむづかしさがある。

しかも、主体は自主的な実践をもとにした生徒活動であり、長い過去の生活の中で育てられたものの上に未来をみつめる異質的なものを多く含み、内容によっては、その所管が教務係であり、体育科であり、補導係、生徒会顧問であったりして、校務分掌の上からも画一的に処理できない多くの面をもっている。それだけに指導に当たっての困難さも多角的である。

この報告は、一応、われわれが当面した問題の一部について検討委員が試みた対内的対策にすぎない。この種の問題は、〴〵指導の手びき〴〵的知識と理解だけでは処理できない所に本質があるようだ。この先、個々の行事の具体的な展開の過程で、つとめて他に範例を求め、慎重な試行を重ねて成果を高めたいと念願している。この協議会を通して有益な助言と指導が得られれば幸わせである。

（文責、光谷音吉）



付： 生徒の活動事例（実行委員の記録より）

予 饒 会（2月10日）

◆指示と要望事項（学校）

- 1 日程は行事予定の審議過程で、例年通り2月10日を決定しており、後期執行部の活動準備は第3学期始業後からでよい旨を指示。
- 2 始業後、活動展開に先立ち次の点を要望（生徒会係り）
  - ×新設の舞台および効果等については、とくに係教官の直接指導をうけ、管理と運営に万全を期すよう、従来の運営面にみられない注意点を指示。
  - ×招待など、対外的関連事項は無断で行わないこと。
  - ×内容は過去の例を参考にするのもよいが学生らしいねらいと態度をもたせること。
  - ×過去の例での不備な点を具体的に教示して自重をうながす。

（例）時間の遅延、とび入りの悪習、みる態度、俗悪な内容など。

×経費は常に明確に、現金払いを原則とし些細な支払いにも商店に迷惑をかけないこと、そ

のためにも、生徒会から予定されている各クラスへの補助金は早めに支給しておくこと。  
×準備と練習のために下校時がおくれないよう、やむを得ぬ場合、家庭への連絡を確実に実行する態度を要望。

#### ◇生徒会の動き

##### 1 1月17日

×予餞会準備委員会設立、各係りを検討、係長を内定。(氏名省略)

委員長、副委員長、記録、会計、プログラム係、招待状係、借用係、ポスター、照明係、放送係、運営係、案内係、会場整備係、苦情処理係。

##### 2 1月18日

×準備委員会を召集、各係りの仕事内容を伝達、係員を決定。(氏名略)

###### ・プログラム係

表紙のデザイン、印刷所選定、各クラスの出しものを調査し検討する。

プログラム配布の日を考える。

###### ・招待状係

文章作成責任者は文化委員長とする。両用紙にプリント、封筒の表書き、発送時期の検討。

###### ・借用係

スポットライト、くす玉の交渉

###### ・ポスター係

宣伝各クラスのポスター管理。

###### ・照明係

各クラス毎の照明係りを特別指導する。

###### ・放送係

設備を熟知する、マイクの位置を考える、アナウンスの担当。

###### ・運営係(委員長、副委員長も補佐する)

順序の決定、飛び入りについての事前調査と検討、先生方のことを考える、生徒会功労者の選定、くす玉割り。

###### ・案内係

卒業生の接待方法、お茶と菓子の準備、受付け、卒業生出席予定人数の事前調査。

###### ・会場整備係

くす玉の作製、会場の装飾、看板、会場の椅子の配置、めりく立ての作製、暗幕と仕切り幕の整備、生花準備、下足の扱い方。

##### 3 1月19日

×辞令を作成(各係り員用)

×議会提出の予餞会原案を作製。

(日時、場所、とび入りの件、クラス補助金額、功労者選考など)

##### 4 1月20日

×原案を議会に提出、延会となり保留。

##### 5 1月25日

×議会の審議終了、可決。

6 1月26日

- ×正式に辞令を出す。
- ×各クラスの出しもの（題名と概要）を調査。
- ×補助費を分配し、現金購入を要望する。

7 1月28日

- ×運営委員長を変更
- ×各係りは仕事に着手しはじめる。

8 2月1日

- ×執行部と演劇クラブからの注意事項を印刷して各クラスへ配布。

9 2月9日

- ×ホームルーム委員を集め、順序などについて最終的に打ち合わせを行う。
- ×会場準備に着手、短縮授業をお願いする。

10 2月24日 反省会を行う、おもな意見は、

- ×舞台の管理、運営を演劇クラブに一任する方法をとって失敗した。以後は舞台係および連絡係を設けることが大切。
- ×舞台がいこの日程がよくなかった。
- ×内容については各クラスとも時間超過のきらいがあるから、時間配分再考必要。
- ×スマートさが必要、心のこもった方法を考えよ。演劇重点主義はよくない。

**春季スポーツ大会（体育委員長反省記）**

生徒会が新役員を決定し、活動を開始したのが4月18日。大会予定日が4月27日なので、準備期間は僅か10日間。何分、発足したての役員ばかりなので、あれよあれよという間に日は過ぎ、本格的に準備がすすんだのが24日頃となる。滝野先生（体育）にいろいろ注意助言をいただいて体育委員長が立案。

難点は期日の問題で、4月下旬を予定されているが、天候の都合で流れる可能性が十分ある。また、5月初旬は連休つづきで、ゆったりした日程がくめない。中旬には運動会が予定されている。このような状況のもとに立案したわけだが、心配された天候も27日は全日快晴であったため予定は順調にすすんだ。28日午後の部は雨のため、その後、5月1日と2日に分離して実施する。難点の第2は、クラブとの関係であった。各クラブが4月29日から5月5日にかけて、つぎつぎと春の大会を控えていたため、練習とのかね合いに随分と気がつかった。

大会2日前から3年をのぞく各クラスの体育委員が全員各種の準備にあたり、熱心に協力してくれたので委員会も順調に事を運ぶことができたし、当日は各種目の運営を担当したクラブの努力に感謝する。

新学期を迎え、新しいクラス編成となり緊張した空気がただよかったが、この大会がその緩和に役立ち、新しいクラスの団結をうながしたと信じている。やり甲斐を感じた。

（種目、運営法は略す）

**運 動 会** ——当日までの動き—— （執行部記録より） 5月12日実施

○ 4月22日

- ×遠足終了後、美術室にて打ち合わせ（執行部、体育委員長）を行う。
- ×昨年度のようすを説明、反省点を指示。



- ×運動会実行特別委員会設置に関する原案を作る。（目的，活動の期間，構成メンバー……執行部8，ホームルーム委員9，体育委員18，計35……）
- 4月25日
  - ×種目に関するアンケートの要項を相談。（内容略）
  - ×係り長および係員選定の腹案をねる。
    - 進行，審判，召集，記録，用具，接待，救護，放送，総務，フォークダンス。
    - （各係りを任意選定するか，クラブ単位に委任するか）
- 4月26日
  - ×実行委員会設置案を議会に提出，承認。
- 4月27日
  - ×運動会原案を議会に提出——採点法を除き承認，採点法修正して承認。（内容略）
  - ×種目に関するアンケートを配布（30日，集計）
- 5月1日
  - ×各係長を決定，本人の承諾を得る。
- 5月2日
  - ×種目の追加と削除を協議
    - 追加—遅乗り，削除—カップル競争，ホタル狩り
  - ×係長会議の準備（前年までの総合的資料少く困難性あり）
  - ×係りの配分がクラスに均分されていないことを発見，再考，また，応援リーダーやホームルーム委員を係りにしないことを考え，副委員長に人選を一任。
- 5月3日
  - ×係長会議を開く。
    - 資料を配布し，今後の予定を説明
  - ×各係りは放課後より仕事を始める。
  - ×係員の辞令を出す。
  - ×プログラム内容を決定。
- 5月4日
  - ×フォークダンス練習開始。
    - （予定……毎日，屋上か武道場）
  - ×各種目の出場人数を決定。（総務）
  - ×各クラスの選手登録用紙を作成，配布。
- 5月6日
  - ×仮装，入場行進などの順番くじ作成。（総務）
  - ×ゴール，スタート，トラックの大きさなど決定。（審判）
  - ×必要用具の新規購入分見積る。（用具）
  - ×採点形式，採点表，用紙など決定。（記録）
- 5月7日
  - ×俵，ビールビンなど購入契約する。（用具）
  - ×小冊子のプリント作成にかかる。（進行）
  - ×得点表を印刷。（記録）
  - ×出場者の資格を審査，今後の詳しい計画をねる。（総務）

- 5月8日
  - ×審判係り集まり，受け持ちを決定。
  - ×記録係り集まり，分担決定，採点表を作る。
  - ×用具係りの人員割りあて，計画用紙をプリント。
  - ×放課後，係長会議をひらき連絡，進捗確認。
- 5月9日
  - ×小冊子を作成。（総務）
  - ×当日のあと仕末の分担，方法を決定。（総務）
- 5月10日
  - ×各クラスに小冊子を分配。
  - ×接待係りの打ち合わせ，用務員との連絡。
- 5月11日
  - ×集合時刻の検討。
  - ×プログラム分配。
  - ×救護係りは手当法を習う。
  - ×テント，放送用具，グラウンド整備，用具確認を行う。
- 5月12日
  - ×運動会実施。